日中韓の温暖化政策と 2050年温室効果ガス実質ゼロに向けた課題 に関する オンライン公開セミナー開催案内

開催背景と目的

最近、日中韓3国の政府は、2050年（中国は2060年）温室効果ガス排出実質ゼロを表明しており、東アジアでも脱炭素社会に向けた道程が始まろうとしています。日中韓の実質ゼロ目標に向けた政策課題を比較考察することは、相互への有益な示唆が得られると思われます。そこで、日中韓の第一線研究者を招聘し「日中韓の温暖化政策と2050年温室効果ガス実質ゼロに向けた課題」に関するオンライン公開セミナーを下記のとおり開催する予定です。
ご関心のある方は、12月15日（火）までに、李のメール（slee@meijo-u.ac.jp）までお送りいただけましたら、当セミナーに参加できるオンラインアクセスアドレスを送付させていただきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 開催日時	2020年12月21日（月）　16:30 ～ 19:00	
2. 開催方法	オンライン開催（ズーム利用） 2020年12月15日（火）までに、ご所属・氏名・メールアドレスを記載の上、李秀澈のメールアドレス（slee@meijo-u.ac.jp）までお送りください。ズーム参加アドレスを送付いたします。	
3. プログラム	16:30 ～ 17:30	趙容成氏（韓国エネルギー経済研究所・所長） 「韓国文在寅政権のグリーンディール政策と2050年温室効果ガス実質ゼロ目標に向けた課題」 ※韓国語・日本語逐次通訳（昔宣希・長崎大学准教授）
	17:30 ～ 18:00	周瑋生氏（立命館大学・教授） 「中国「2060年温室効果ガス実質ゼロ」目標のロードマップの実態と課題」
	18:00 ～ 18:30	工藤拓毅氏（日本エネルギー経済研究所・理事） 「日本の温暖化政策と2050年温室効果ガス実質ゼロ目標に向けた課題」
	18:30 ～ 18:45	総括コメント 松下和夫氏（京都大学名誉教授、（公財）地球環境戦略研究機関シニアフェロー）
	18:45 ～ 19:15	質疑応答 司会：李秀澈（名城大学・教授）

講師主要略歴

趙容成 氏
韓国エネルギー経済研究所所長

高麗大学農学部農業経済学科を卒業し、アメリカミネソタ大学で応用経済学博士学位を取得。高麗大学食品資源経済学科教授（所長就任時から休職中）。韓国環境省中央環境審議会委員、大統領直属グリーン成長委員会委員などを歴任し、2018年7月から現職。

周瑋生 氏
立命館大学政策科学部教授

京都大学大学院物理工学専攻修了（工学博士）。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）産業技術研究員、地球環境産業技術研究機構（RITE）主任研究員を経て、1999年に立命館大学法学部准教授、2002年より現職。RITE研究顧問、立命館孔子学院長、立命館サステナビリティ学研究センター長など歴任。

工藤拓毅 氏
（一財）日本エネルギー経済研究所（IEEJ）理事
電力・新エネルギーユニット担任

筑波大学大学院環境科学研究科終了後にIEEJ入所。Resources for the Future（RFF）客員研究員、IEEJ地球環境ユニット総括等を経て現職。UNFCCC/JISCメンバー、ISO/TC207/SC7、ISO/TC322等の国際標準化活動に参加。

お問い合わせ
主催担当：李 秀 澈（名城大学経済学部教授）
Tel：+81-52-832-1151／Email：slee@meijo-u.ac.jp

※本セミナーは、科学研究費（基盤研究（A）研究代表：李秀澈）東アジアの持続可能な未来に向けたエネルギー、資源、土地利用の大転換と制度改革（2016～2019年度）の支援を受けています。
科研費 KAKENHI